

令和 2 年 4 月 17 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード (代表者校園の市費コード)
761760

代表者	校 園 名 :	大阪市立長橋小学校
	校園長名 :	原田 哲次
	電 話 :	06-6561-4692
	事務職員名 :	岡田 歩美
申請者	校 園 名 :	大阪市立長橋小学校
	職名・名前 :	主務教諭・安井 理恵
	電 話 :	06-6561-4692

令和2年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	児童一人一人の特性を見極め確かな学力を身に付けるための指導のあり方 —発達に課題のある児童・生徒への支援と環境整備を通して—			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○発達に課題のある児童・生徒への支援方法の考察 ○環境整備UD化の追究 ○同一進学校下の学校で連携し、児童・生徒の課題に対する協同的支援の実施 ○専門的な講師による研修会や講演会への参加を通じた、教員の専門的知識と自己研鑽の意欲の向上</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>文部科学省における「特別支援学級数及び在籍児童生徒数の推移」の資料には、少子化傾向にあるにも関わらず年々、特別支援学級在籍者数が増加傾向にあることが示されている。学校現場においても、個々の特性に応じた支援を必要とする児童・生徒が増えてきているという実感がある。近年では、ゲーム障害などの新しい障害の診断もされるようになり、今後も社会環境により配慮を要する児童・生徒が増加していくことが予想される。鶴見橋中学校区においても同様に発達の課題のある子どもたちが非常に多く、ASD、ADHD、DCD (LD)、愛着障害など多岐にわたると思われる。中でも、愛着に課題のある児童・生徒の割合が多いと感じられる。愛着障害については、本研究を共同で進める三校共通の課題としてあげられている。愛着障害は発達の遅れ、特に認知や言語習得の遅れを併発するため、症状だけでは発達障害と区別がつかない場合が多い。しかし、発達障害と愛着障害の支援の方法は違うため適切な教育を施さなければ症状が改善されない。そこで、本研究では次の下記の3点について重点的に研究を進める。</p> <p>① 発達に課題のある児童・生徒への支援方法の探求 ② 環境整備UD化の追究 ③ 教員の研究会・研修会参加を通じた専門的知識と自己研鑽の意欲の向上</p> <p>学力向上を支える上でも、認知機能を高めるコグトレや視機能を高めるビジョントレーニングなどの体づくりなどを通して、脳機能に対してアプローチを行う。さらに、教室や学校環境のUD化を行い、児童・生徒が安心して過ごせるようにする。また、現行の校内で行われている集団育成などに関わる実践交流会などでは、問題行動を起こした児童・生徒に対しての対処療法について話し合う場が多いが、それではリスクマネジメントは不十分であるといえる。日々、子どもたちと関わるうえで、多くの専門的な視点をもちアセスメントを行うことで、適切な教育ができるといえる。そのため、専門的な知識を得るために、大学教員や講師を招聘し研修会を実施する。教員が専門的な知識を獲得することにより、学ぶことの大切さを実感するだけでなく、視野を広げて児童・生徒と向き合い柔軟な対応ができるようになると考えられる。鶴見橋中学校区で抱える課題を改善し、地域の児童・生徒、また、かかわる教職員にとって有用となる研究や研修会を実施していきたい。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討 連携校との内容の共有</p> <p>6月 連携校協議会① 教員・児童・生徒への事前アンケート作成・実施・分析 教員研修プログラムの作成 児童アセスメントの実施 各校への大学教授の視察・児童の課題の把握・研修会</p> <p>7月 第1回 連携校研修会 今後の計画 研修会 名古屋（参加後、内容の周知及び研究内容に活用）</p> <p>8月 研修会 大阪（参加後、内容の周知及び研究内容に活用） 研究大会 広島（参加後、内容の周知及び研究内容に活用） 連携校協議会② 研修内容を踏まえた研究経過の分析と今後の取り組みの検討</p> <p>10月 研究大会 大阪（参加後、内容の周知及び研究内容に活用）</p> <p>12月 連携校協議会③ 研究結果の分析・研究成果のまとめ</p> <p>1月 第2回 連携校研修会・研究発表会（参加者アンケート）</p> <p>2月 教員・児童への事後アンケート実施・事前アンケートとの比較・分析・結果の考察</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 ○認知機能や視機能を向上させるトレーニングに関する研究を進めることにより、児童の「対人スキルの獲得」や「書く力」・「読む力」・「運動能力」などを育成する。</p> <p>《検証方法》 3校の抽出学級の児童・生徒を対象としたアンケートの「人とうまくコミュニケーションをとることができますか」の質問項目において実践前後で比較し3ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果2】 ○認知機能や視機能を向上させるトレーニングに関する研究を進めることにより、児童の「対人スキルの獲得」や「書く力」・「読む力」・「運動能力」などを育成し子どもの自信につなげる。</p> <p>《検証方法》 3校の抽出学級の児童・生徒を対象とした視写テストにおいて速度と正確性を実施前より上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 ○認知機能や視機能を向上させるトレーニングを行うことで、児童・生徒が自分の能力を高めることを通して達成感や満足感を得る。</p> <p>《検証方法》 自己肯定感を問うための「自分自身に満足している」の質問項目に肯定的な回答を平均値を実施前後で比較し3ポイント上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果4】 ○不器用さを改善させるための教室・学校環境づくりを進め、さらにUD化を進める。それらの取り組みが、児童・生徒のボディイメージを高める結果につなげる。</p> <p>《検証方法》 体の発達、特に腕や手指の運動能力と関係が深い描画検査グッドイナフ人物画知能検査や運動能力を計る検査において実施前後で比較し平均値を3ポイント上げる。</p>

6	見込まれる 成果とその 検証方法	<p>【見込まれる成果5】 ○教員の研究会・研修会参加を通して発達に対して専門的な知識を身に付けることができる。</p> <p>《検証方法》 教員へのアンケートを実施し「研修会に参加して役に立った」の肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果6】</p> <p>《検証方法》</p>				
7	研究成果の 共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。</u></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="405 759 1465 831"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 1 月 14 日</td> <td>場所</td> <td>鶴見橋中学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 3 年 1 月 14 日	場所	鶴見橋中学校
日程	令和 3 年 1 月 14 日	場所	鶴見橋中学校			
8	代表校園長 のコメント	<p>鶴見橋中学校区における一部児童生徒は、厳しい生活背景と発達上の特性が影響し、集中力の低下や低学力を生じ、無気力や問題行動、不登校につながるなど、負のスパイラルから抜け出せない状況にあります。本研究では、こうした問題を愛着障がいの理解などに関連させ、効果的な支援の在り方や認知機能を高める取組を追究していきます。認知機能や愛着障がいについては、昨今専門研究が進み、さまざまな取組が学校で行われるようになってきています。本研究では、3校の抽出学級においてさまざまな支援や取組を試み、効果の分析を多角的に行っていきたいと考えています。そして、得た研究成果を次年度以降は3校全体に広げていく予定です。</p> <p>本研究を通して、児童の特性を活かす教育をめざすとともに、小中連携・小小連携の可能性を広げることもつなげたいと考えており、研究・取組の実現のため、選定を切に希望いたします。</p>				